

阪急茨木市駅西口駅前周辺整備基本計画(案) (概要版)

1/4

1. 基本計画策定の目的

現在の阪急茨木市駅西口駅前周辺は、昭和45年(1970年)に開催された万国博覧会(大阪万博)に併せて整備され、以降、半世紀に渡り本市中心市街地の東の玄関口として商業や交通の機能を支えるとともに、行政機関や商店街にも近いことから、日常的に多くの市民が利用しています。

しかしながら、整備から50年が経過し、施設の老朽化や社会・経済情勢の変化により形態や機能の面において今日的なニーズとの不整合が生まれ、安全で円滑な交通機能や魅力ある空間の不足といった様々な課題を抱えています。

本基本計画は、次なる茨木に向け、再整備における基本的な方向性と駅周辺の目指すべき将来像を市民の皆さまと共有しながら事業を進めていくために策定するものです。

2. 地区の概要等



上位計画・関連計画

- 【総合計画】 魅力ある賑わい拠点を形成し、生活に彩りを持たせる地域
- 【都市計画MP】 商業・文化・生活支援機能が集約されたまちの拠点、駅前広場等交通拠点としての機能を強化
- 【中心市街地活性化基本計画】 中心市街地の核となる拠点
- 【次なる茨木・グランドデザイン<たたき案>】 東西軸と商店街の接点となる機能や場を備えた拠点
- 【立地適正化計画】 時代に即した多様な機能の導入と駅前広場と一体となった空間の創出
- 【交通戦略】 JR茨木駅～阪急茨木市駅間は、歩行者優先の回遊性の高い道路空間の創出
- 【景観計画】 茨木市の玄関口そして中心市街地にふさわしい景観の形成
- 【緑の基本計画】 オープンスペースの確保、緑化の推進

市民ニーズ

- ・交通環境の改善と安全で快適な歩行者空間
- ・休憩・多世代交流・イベントなど多目的に活用でき、多世代が交流できる空間の創出
- ・憩いや賑わい、子育て等、生活に潤いを与え、サポートする機能の確保
- ・商店街や中央公園とつながり歩いて楽しいまちづくり
- ・阪急南東部地域の救急医療の拡充

地区の課題

- ・駅前広場における交通の輻輳や駅周辺道路の渋滞及び安全対策
- ・老朽化・耐震性能不足となった駅前ビルによる周辺地域とのつながりの阻害
- ・駅前にふさわしい景観、憩い、賑わい、交流空間や商業・生活支援機能の不足

地区の特徴

- ・駅周辺には、茨木阪急本通商店街など市民生活を支える複数の商店街等が立地
- ・駅西口は日中の歩行者交通量が多く、日常的に駅や駅周辺の施設を利用する方が多い
- ・駅南北の自由通路が駅と東西市街地をつなぐ主要動線



整備の視点

- ・持続可能なまちを実現するためには、官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換・先導し、民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成することで、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現することが必要
- ・中心市街地における各施策を点(施設や取組単位)だけの施策に終わらせるだけでなく、面(中心市街地)として捉えることで、中心市街地全体に人の回遊・滞在・交流・活動を波及させていく視点が重要
- ・将来を見据えた段階的な整備

阪急茨木市駅西口駅前周辺整備基本計画(案) (概要版)

2/4

3. 目指すまちの構造と求められる取り組み

中心市街地の恵まれた地理的条件(広域結節点の鉄道両駅間が約1.2kmと徒歩圏であり、その中間点に市役所・中央公園・元茨木川緑地がある)を活かした

『2コア1パーク&モール』の都市構造の実現

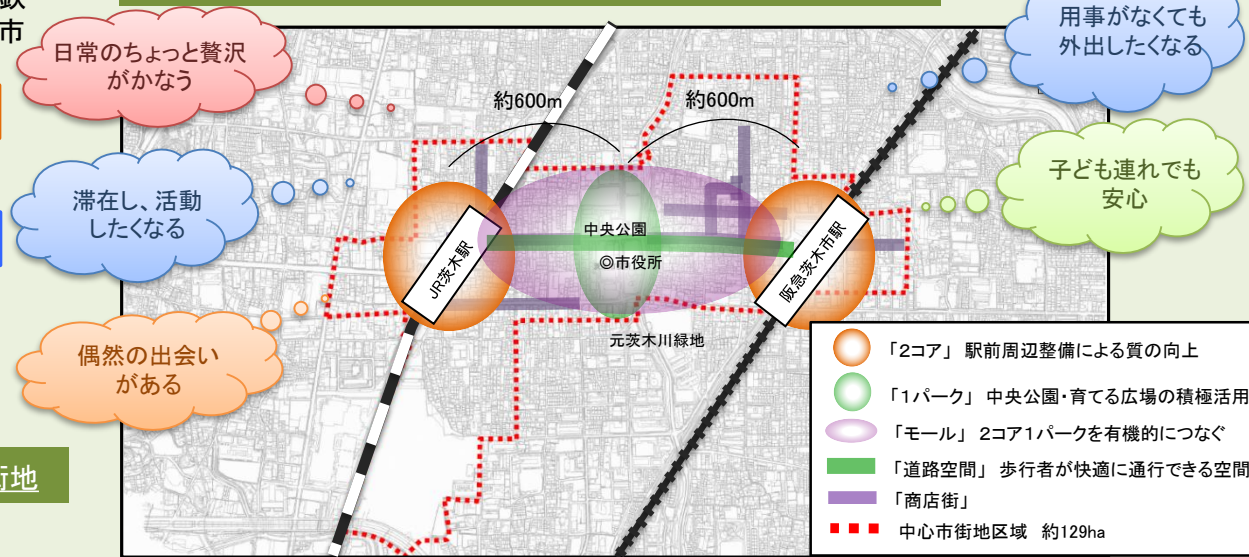
暮らしやまちの質を向上させるため

市民等がまちを使い楽しむための仕掛けづくり

住み続けたい、住んでみたいと思われる「居心地のいい」空間を創出する施策を展開

“ひと”が中心の歩いて楽しい魅力的な中心市街地

中心市街地の目指すまちの構造(2コア1パーク&モール)



4. 中心市街地(各エリア)の整備コンセプト(案)

JR茨木駅エリア

「教育を創造する玄関口」

地区をイメージするキーワード:

広域との接点/大学・企業連携/挑戦/期待/若さ/躍動/メディア ⇒『惹きよせる』

市役所・市民会館エリア

「緑と文化あふれるセントラル」、「ガーデンクロス」

地区をイメージするキーワード:

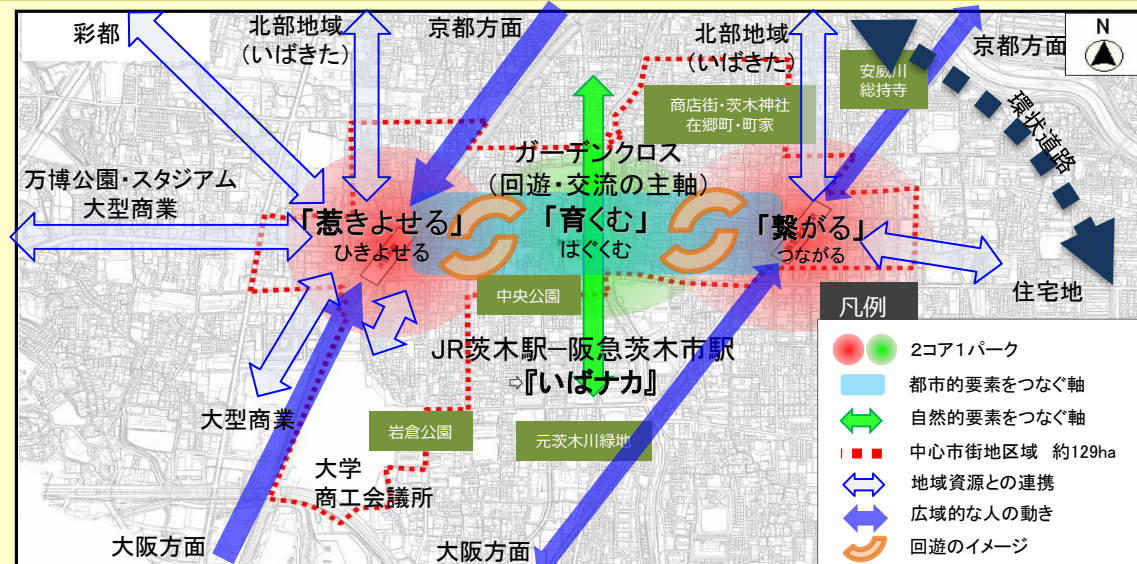
集い憩う/自然を楽しむ/文化芸術/使う ⇒『育くむ』

阪急茨木市駅エリア

「生活の質を高める場」

地区をイメージするキーワード:

上質な日常/商店街を結ぶ/歴史/レトロ/落ち着き ⇒『繋がる』



※各エリアの整備コンセプト(案)は、今後も市民の皆さまと一緒に共感できるキーワードをつくっていきたくと考えています。

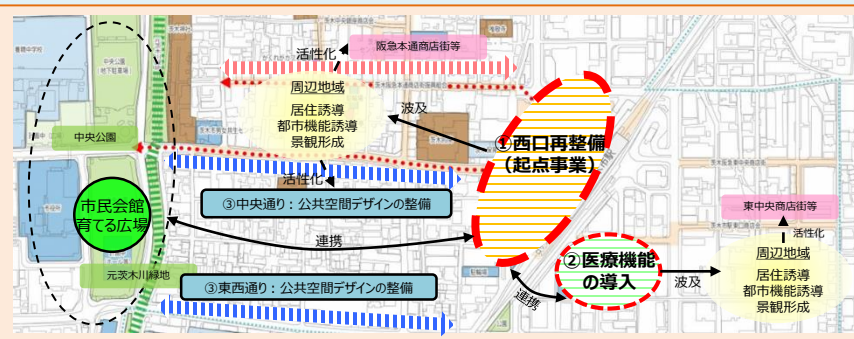
5. 駅東口との機能分担と段階的な整備のイメージ

現状では、交通機能を有する駅前広場は西口と東口に存在しますが、中心市街地を「ひと」が中心の歩いて楽しい魅力的なまちにするためには、中心部の玄関口となる西口は歩行者中心の人が憩い過ごせる広場に、東口は主に交通機能を集約した駅前広場とすることが適切と考えています。

しかし、その実現には、中心市街地を通過する交通への対策や東口の再整備等も必要になってきます。このため、時間軸を考慮して、概ね30年後を想定した将来においては、東口に交通機能を集約し、西口は「ひと」が中心の居心地のよい空間になることを目指すこととし、その実現に向けて、以下に示す手順による各対策・整備等を連鎖・連携し、段階的な整備とすることを考えています。

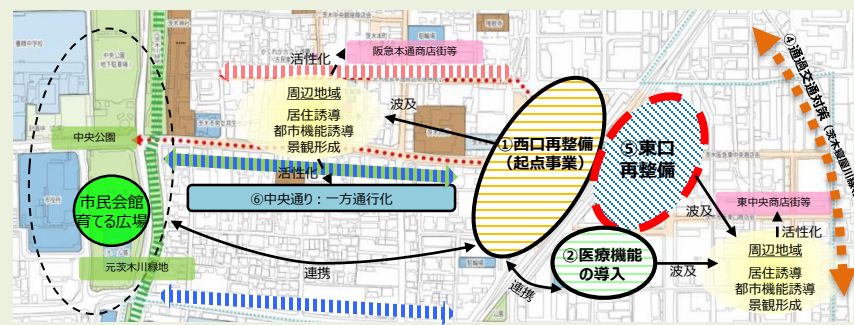
フェーズ1(概ね10年後を想定)

- ① 西口における再整備
2軸(商店街、中央通り)の動線を主軸とし、“まちなか”に開かれた公共空間(交通広場)を形成
- ② 東口における医療機能の導入検討
中心市街地に「医療」の都市機能を導入
- ③ 中央通り等における公共空間デザインの整備
質の高い道路空間・沿道空間に関する方針、滞在空間の創出に関する方針等を作成



フェーズ2(概ね20年後を想定)

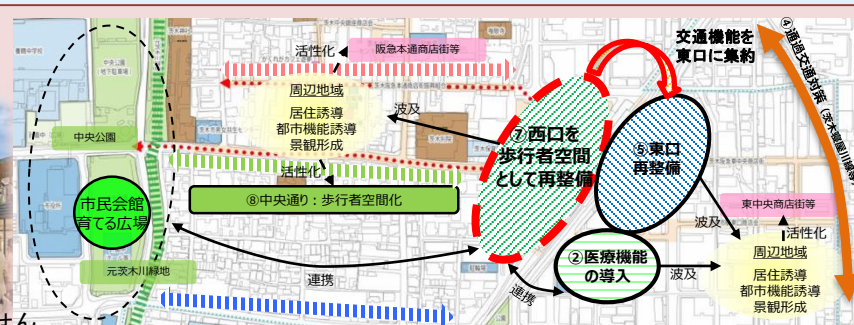
- ④ 中心市街地への通過交通対策
(都)茨木寝屋川線等の道路整備により通過交通を排除
- ⑤ 東口における再整備
交通広場機能を拡充
- ⑥ 中央通りを一方通行化・自動運転による移動支援
道路空間の再配分によるゆとりある歩行者空間の確保及び良好な沿道景観の誘導・自動運転による移動支援



フェーズ3(概ね30年後を想定)

- ⑦ 西口を歩行者空間として再整備
交通広場機能を東口に集約し、歩行者空間として再整備
- ⑧ 中央通りを歩行者空間化
ゆとりある歩行者空間の確保及び良好な沿道景観の誘導

【概ね30年後のイメージ】



※あくまでもイメージであり、確定したものではありません。

阪急茨木市駅西口駅前周辺整備基本計画(案) (概要版)

4/4

6. 整備コンセプトと基本方針(フェーズ1)

【整備コンセプト】

上位計画・関連計画
(総合計画・都市マス・中活・グランドデザイン・立適・交通戦略など)

市民ニーズ

地区の課題

地区の特徴

整備の視点

①市民生活を支える交通機能の強化

拠点性を強化し、将来にわたり、安全で利便性が高く、市民生活を支える駅前を目指す。

② 周辺地域とのつながりによる地域全体での魅力向上・活性化

周辺の商店街、茨木別院などの歴史的資源、育てる広場として整備中の中央公園などとつながり、回遊性を高めることで地域全体の魅力向上・活性化を目指す。

③ 市民ニーズに応え、暮らしに憩いと彩りをもたらす

暮らしに憩いと彩りをもたらす機能の導入や空間の創出・再編などを行い、中心市街地の核にふさわしい人中心のまちづくりを目指す。

「暮らしに憩いと彩りをもたらし、人とまちがつながる場の創出」

【基本方針】

交通機能の強化と安全・安心な駅前

- ①-1 駅前広場および周辺道路の再編
- ①-2 安全で快適な歩行者空間の整備
- ①-3 災害時の拠点としての役割の確保

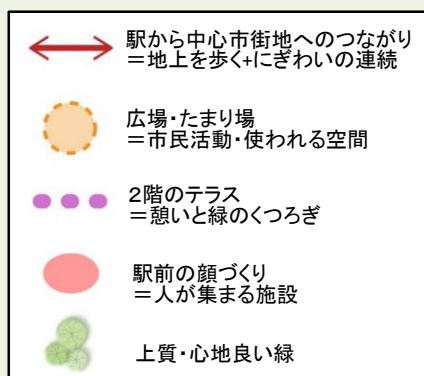
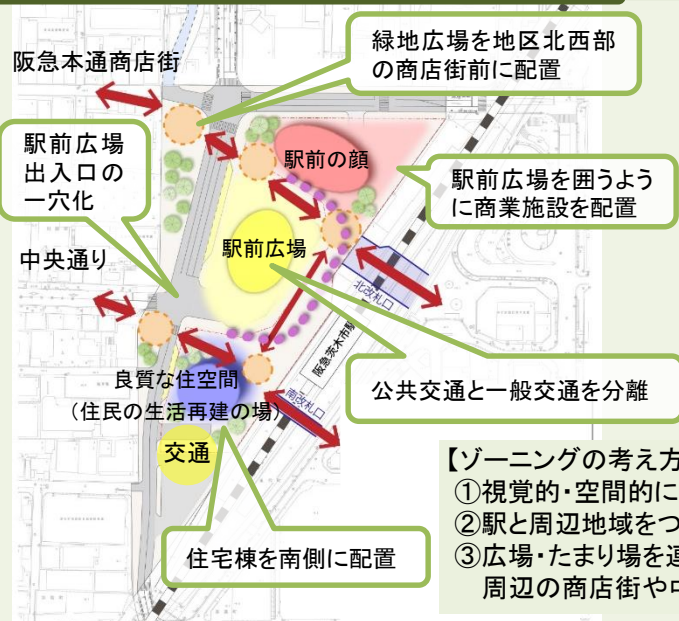
駅と周辺地域とのつながりを構築

- ②-1 駅と周辺地域をつなぐ動線の確保
- ②-2 まちに開かれた駅前空間の創出

多様な都市機能と良質な住空間の整備

- ③-1 憩い、多世代交流等を生む場の整備
- ③-2 周辺地域の価値を高める駅前にふさわしい施設の整備
- ③-3 賑わいをもたらす良質な住空間の整備

7. 土地利用ゾーニングと完成イメージ



【ゾーニングの考え方】

- ① 視覚的・空間的にまちに開かれた駅前空間を創出
- ② 駅と周辺地域をつなぐ動線軸(2軸)を形成
- ③ 広場・たまり場を連続的につくることで、回遊性を創出し、周辺の商店街や中央通りなどまち全体の連続性につなげる

【整備後(概ね10年後)のイメージ】

